

日蓮大聖人御書全集

みようほうあまごへんじ

妙法尼御返事

新版
1999

みようほうあまごへんじ

妙法尼御返事

こうあんがんねん

がつ

にち

さい

みようほうあま

まつのどの

えんじや

弘安元年('78)

5月1日

57歳

妙法尼

〔松野殿の縁者〕

にちがつ

ち

落

しゅみせん

崩

か

によにん

ほとけ

日月は地におち、須弥山はくずるとも、

彼の女人、仏に

な

たま

うたが

頼

成らせ給わんこと疑いなし。あらたのもしや、たのもしや。

ほ いいいつと

ふるさけひとつ

粽

青

筍

かたがた

干し飯一斗・古酒一筒・ちまき・あおざし・たかなな、方々

もの

おく

た

そろうろ

の物、送り給びて候。

くさ

咲

はな

き

かわ

こう

ほとけ

たてまつ

ひと

りようじゅせん

草にさける花、木の皮を香として仏に奉る人、霊鷲山

まい

たみ

骨

碎

はくまい

ひと

へ参らざるはなし。いわんや、民のほねをくだける白米、人

ち

搾

古

酒

ほとけ

ほけきよう

の血をしぼれるがごとくなるふるさを、 仏・法華経にま

たま　によにん　じようぶつとくどう　うたが
いらせ給える女人の成仏得道、疑うべしや。

ごがつついたち

五月一日

にちれん
日蓮

かおう
花押

みようほうあまごへんじ

妙法尼御返事